

公民館の図書室は 学びの入口・みんなの本棚

国立市中 1-15-1

TEL.042-572-5141

FAX.042-573-0480

国立市公民館

図書室月報

2025 年(令和7年)1月5日

第 740 号

〈アンケート特集〉

2024年 印象に残った本

公民館図書室利用者・講座参加者の方に、
「今年印象に残った本」アンケートに答えていただきました。
皆さんのおすすめの本をご紹介します。

おかげさまで多くの方に原稿をいただきましたので、2月号でも引き続き紹介予定です。

「女性」をキーワードに映画を考察している。第一章は、映画の中でどのように女性が描かれてきたかについて書かれています。

『ウイメンズ・ムービー・ブレイクファスト』
降矢聡+吉田夏生編
(フィルムアート社)
小野 千花

この本は、戦時中の日本にタイムスリップした、現代の女子高校生と特攻隊員の青年の切ない恋の行方を描いたラブストーリーです。この本のおすすめの所は、現代の女子高生生の百合と、特攻隊員の青年、彰の別れのシーンです。お互いに惹かれてあっているのに、いつかは別れてしまうという現実を受けとめきれない百合。泣く泣く彰と別れ、現代にもどると、さらにおどろくことが。そこにも注目してよんでみてください。

『あの花が咲く丘で
君とまた出会えたら』
汐見夏衛(スタート出版)
よしだ
由田 ひより

小澤征爾さんといえば知らない人はいない、世界を舞台に活躍したクラシック音楽の巨匠です。中国生まれですが、引き上げ後、なんと立川市に帰ってきました。両親と4人の男兄弟の家族で、貧乏でした。父は征爾さんがピアノの才能があると聞いて、金がありません。ライカを売って、金を出します。でも兄弟だけで、ピアノを保谷経由で横浜からリヤカーで運びました。また、彼はピアノのほかにラグビーにも熱中しますが、指を骨折してしまい、それが指

『小澤征爾、
兄弟と語る』
小澤俊夫、小澤征爾、小澤幹雄
(岩波書店)
今村 三郎

る。共感するものもあれば、私の知らなかった新たな視点もあり、とても楽しめた。
第二、三章は女性の監督や業界人について書かれている。スクリーンの中でも外でも、女性が多様に活躍できるような業界になってほしい。

著者は、インド出身、欧米名門大で勉強した医師、がん研究者。デビュー作の『がん』はピューリッツァー賞受賞、本書は三作目。同著執筆後、治療には対症療法だけでは限界があり、遺伝子や細胞レベルの理解が必要だとして、人間の免疫システムや細胞内外で起こっている反応を、素人(読者)にもわかるような丁寧な説明。臨床で患者と向き合いながら、同時に最先端の研究も行い、さらに執筆まで行う天才?医師に、頭が下がる。

『細胞
生命と医療の本質を探る』
シッダールタ・ムカジー著
田中文訳(早川書房)
新田 雅司

揮者になるきっかけになります。そのほかいくつかの挿話があります。この本は、征爾さんが生前に、兄弟たちと語り合ったものをまとめたものです。貧乏生活の中で助け合い、それでもよく合唱しました。「若いうちの苦労は買ってでもしろ」とはよくいわれます。まさにことわざ通りといえるでしょう。

『ニイルス・リイネ (死と愛)』

ヤコブセン著、山室静訳

(角川文庫)

大井 利雄



中学生のとき手にした『文学入門』桑原武夫 (岩波文庫) の

世界近代小説 50 選は、長く読書のガイドとして親しんだ。繰り返し読んだ本も多数あるが、本年の『ニイルス・リイネ (死と愛)』でやっとすべてを読み終えた。中断はあったが、あしかけ 70 年、青春・壮年・老人各世代で、ものの多様性についての感受性の高さが身にしみついたといえる。いずれの作品も時代を経て、瑞々しく人間の生きかたについての根源的な葛藤を問うている。

本書も、ニイルスの誕生そして死ぬまでの伝統宗教や観念の世界を脱して世界のありのままの姿を詩に歌おうと願う男が、恋に破れ、旧社会の慣習にも屈し、いつまでも足踏みしたまま生涯を終える物語である。邦題が示すように彼の人生は多くの出会いそして死と愛に彩られていた。

もつと若いときに読んだら感動もひとしおだったかもしれない。直前に読み終えた『マルテの手記』(リルケ) も類似作品。

形而上学的な生き方ともいえる主人公は、漱石の作品に多い高等遊民ともいえる。

『ぼくが生まれて、ふたつの世界』

五十嵐大 (幻冬舎文庫)

東 健太郎



映画を先に見た。いい作品だったので、もつと深く知ろう

と思ひ原作の自伝的エッセイを読んでみたら、映画以上に心を打たれた。涙が流れたのは 10 カ所ではきかない。主人公はコーダ (ろう者の親を持つ健聴者の子ども) であり、「聴こえない親を守りたい」という肯定的な気持ちと、「聴こえない親なんて嫌だ」という否定的な気持ちとの狭間で大きく揺れ動く。その精神状況が平易な文章で包み隠さず述べられているところが良い。特に思春期の主人公が母に冷たく当たり、母を傷つけてしまふところは読んでいても辛い

が、それでも息子の気持ちを理解し、ずつと応援し愛情を注ぎ続ける母の存在に言葉を失う。

自分だけが辛い目に遭っていると思っていたが、コーダは社会に多くいると知り、その存在を知らしめることに生きがいを見いだす主人公の生き方には強く共感する。

『先生、どうか皆の前でほめないで下さい』

いい子症候群の若者たち

金間大介 (東洋経済新報社)

一木 亜瑠都

本書では、若者の特徴は素直でまじめである反面、横並び意識が強く、人前に出ることに強い抵抗を感じることであり、現在の若者の心理的特徴と課題を指摘している。

大学生の私には思い当たる節がありすぎる!! 大学での自分の生活を見抜かれたような気分になる。だが、この気づきこそが自分をつくるのだらう。個性的と一般的中庸とは何か考えさせられる。自分探しをしている人にはオススメの本である。

『ボヴァリー夫人』論

蓮實重彦 (筑摩書房)

鍛治 勝



まとまった文章を書く秘訣は、精読と多読。いたずらに原稿用紙にむかうより、時間はかかりますが、ロングセラーの作品を読み解くほうが有益です。

作家は皆、精読、乱読の風を経験した人たちばかりと言われます。定評のある文芸評論をひもとくことも、目を鍛えます。その後の読解力に、ちがいが出てきます。専門家はどこをどう見ているか。名作はなぜ名作なのか? 批評のプロの声に、耳を傾ける時間が、宝石です。

『双子まとめて『カノジョ』にしない?』

白井ムク (KADOKAWA)

柳澤 大志

過去のトラウマから目立つことを避けてきた高校一年生、高屋敷咲人。ある日、テストの順位表がはり出された。その日の

順位はいつもよりひくかった。そうすると一人の女の子に声をかけられた。帰りにゲーセンの前を通ると学校では優等生で今日、話しかけてくれた子が禁止されているゲーセンへ入っていた!! 咲人はそんな 2 人にひかれていったが 2 人は双子と分かり...

一人の高校生と美少女双子姉妹とのラブコメストーリー。

『BRUTUS 珍奇昆虫』

2024 年 8 月 1 日 第 1012 号

(マガジンハウス)

高遠 勝元



世界中に生息する摩訶不思議な昆虫達を、写真と世界を代表する昆虫コレクター達が擁する標本箱を通して紹介します! 本当にこんな昆虫いる!? と声が出そうな昆虫から、世界でも数例しか確認されていないクワガタの標本など、昆虫好きでも中々お目に掛かる事ができない昆虫達を一つの雑誌をめくるだけで拝む事ができます。是非この雑誌を手にとって、淡い少年時代のくすぐったくなる様な夏休みに戻ってみませんか?

『海辺の生と死』の中

「旅の人たち」より

「親子連れの踊り子」

島尾ミホ (創樹社)

本間 美佐

昭和のはじめ、奄美群島の加計呂麻島での出来事。

ミホさんの類ない記憶力による御伽の如き本当の事でしろう小学一年のミホと更に幼い旅芸人の娘との対比が鮮かです。

旅の日々を送り達者な芸と話のつぼを心得て大人を笑わせる幼女。そして内気で彼女と親しくなりたいのに勇気が出ないミホ。一晚の厚遇の後には一家は次の旅へ向かいます。思わず「さようなら」と呼びかけるミホに手拭を振る彼らの姿が心に染みます。

『言語の本質』

いつはいつ生まれ、

進化したか』

今井むつみ・秋田喜美

(中公新書)

唐木 紀介



外の変化に学び、内から音のことばが、生まれくるという推理脳の生得現象として、ことば

を生みだす生物としての人間 (ホモサピエス) の発見の書。

生活から学ぶ、他人から学ぶ、読書会から学ぶ、異論から学ぶ。

その学びを参考に、ことばを拡張し、自己の感覚から、新しい意味・ことばをつくり、表現する。同時に脳内に新しい体験を推理し自分の体に入れる。

子どもは大人の矛盾の現実を脳内で組立直し、現実に対応して新しい現実をつくっていく。学ばずとも観察交流脳肯定。

『歌う船』完全版

アン・マキャフリー著

嶋田洋一訳 (創元SF文庫)

金森 匡子



今年感銘を受けたのはこの本です。刊行が1969年と古いにも関わらずまったく古さを感じさせない作品。完全版として今年刊行され、初めて読みました。なぜ古さを感じないのか、事情あって船になった彼女がいろんな経験を重ねて成長してゆく。優秀なサイボーグ宇宙船として銀河を駆けめぐる個々の短編はわくわくするストーリーで

す。短編集で8編入っています。が、時間や場所を超えて楽しめる本です。

『もつじき』

たべられるぼく』

はせがわゆうじ

(中央公論新社)

松村 わき子



わたしという生きものがこうして生きているのは、わたしの食べものになつてくれている生きものがいるから。そのことを考えもせず色々な命を頂いている。頂くという謙譲語を思い浮べることもほぼなく。

もうじきたべられる「ぼく」の切なさ胸に刺さりました。もうじきたべられる「ぼく」の「ぼく」を食べる人への愛も感じました。

もうじきたべられる「ぼく」の切なさ胸に刺さりました。

「ぼく」を食べる人への愛も感じました。

『野の果て』

志村ふくみ (岩波書店)

関 美智子



この書は、染色家であり随筆家でもある著者が、一昨年白寿を迎えられてその記念として刊

行。

内容は「私」「仕事」「思想」の三部構成。「私」では自伝的文章―生い立ちから老境に至るまでの人生―を。「仕事」では柳宗悦や民芸関連、染めと織りなどの物づくり精神を。「思想」では自身の思想、柳宗悦の仏教美学、ゲーテ、シュナイターの色彩論などの多方面に及ぶ。私は最初の「私」に心打たれ、その労苦に涙した。是非読んで頂きたい。

『6力国転校生』

ナー ज्याの発見

キリーロバ・ナー ज्या

(集英社インターナショナル)

田久保 薫子

本書との出会いは2年前。小学校入学前の娘を想い、親の不安が尽きず手にした一冊です。

ソ連(当時)生まれ、両親の転勤で6力国にて学んだ著者が語る「世界の教室」。座席の配置に文具、体育の整列順、点数のつけ方など国により千差万別。「教育も自分らしさも正解なんてない」と感じさせる話の数々に従来のやり方を顧みるきっかけが沢山。常にベストを探そうと勇気づけられました。図書室のつどいでナー ज्याさんにも会えました!

『日本精神史』

近代篇 下

長谷川宏

(講談社選書メチエ)

猪原 康一郎

今年の長谷川宏哲学講座で取り上げられた本だ。登場人物は、

谷崎潤一郎・松本竣介・中野重治・坂口安吾・梅崎春生・椎名麟三・菅原克己・鮎川信夫・田村隆一・芹沢銈介・佐藤忠良・加山又造・三好豊一郎・黒澤明・小津安二郎・溝口健二・花森安治・瀬田貞二・大西巨人・大岡昇平・丸木俊・香月泰男・堀田善衛・日高六郎・大江健三郎・石牟礼道子・中上健次・木下順二・唐十郎・別役美・つげ義春・高畑勲・宮崎駿、以上33人全てが時代を代表する人物とは云い難いが若者の想いが詰った人物ばかりだ。



『オパールのはら』

桐野夏生 (中央公論新社)

荒井 寿恵



主人公のモデルは「中ピ連」の榎美沙子。評伝ではない。

現代の若いノンフィクションライターが、女性解放運動家・薬剤師であった主人公の生涯を、生い立ちから活動、引退後

とその死までの消息を関係者に取材して辿る、という小説である。

ピンクヘルメットで不倫男性の前に現れ糾弾するパフォー

マンスで世間を騒がせたが、中絶禁止法反対やビル解禁の主張

は、女性が身体から考えて決めるためだったと50年後の今、

解ってくる。引き込まれて、一気読み必至。

『ツミデミック』

一穂ミチ (光文社)

裏 由里子

第171回直木賞受賞作。「ツミデミック」とは「罪」と「バ

ンデミック」をかけた造語で、

閉塞感が生まれたコロナ禍の現代ならではの犯罪心理が描かれて

いる短編集。バッドエンドになる前半三作は、自分自身も、

もしかして犯罪者になってしま

うかもしれないという恐怖、絶望感を味わわれる、まさにイ

ヤミス。ハッピーエンドになる後半三作は、読者に希望と温も

りを与えてくれる、著者ならではの上手い配分であると思う。

『新文芸読本 太宰治』

河出書房新社編集部

(河出書房新社)

向井 誠一



三鷹駅付近の跨線橋が新しくなった様である。これを有名にした人物がいる。太宰治である。

写真も残り中々の風采ぶりがしのばれる。本人も意識していた

らしく多少は俳優願望もあった様である。ただ本職の俳優は国

の先々を憂える軍人役を演じた後に人妻に不貞を働きかけるけ

しからぬ男の役が回って来ても

惑う事はない。多重人格的に出

その点では不器用であった。演

じる事が出来そうな役柄について全書を以って対処しようとし

た。玉川上水で人妻と入水を遂げたのもまさにその帰結であっ

た。実は良く似た男がいる。

三島由紀夫である。彼の場

合憂国の士であった。結果特別仕立ての軍服を羽織り自衛隊本

部に侵入してその一室で割腹自殺を演じて見せたのである。

生前三島は太宰をひどく嫌って

いたと聞く。そこには近親憎悪

的情念の絡みがあつた様にも思

われる。

『ともぐい』

河崎秋子 (新潮社)

『起終点駅 (ターミナル)』

桜木紫乃 (小学館文庫)

『地のはてから』

乃南アサ (講談社文庫)

三冊北海道が舞台

岡野 正義

『ともぐい』は、直木賞受賞

作だが人気が高く、図書館で予約待ちが続く。人里離れて狩猟

生活している若者の生き様がリアルに描かれている。ヒグマと

の戦いも迫力満点。

桜木は、『ホテルローヤル』で直木賞を受賞したが、ターミ

ナルと読ませる短編集も道東の深い霧のように暗く重い。

乃南の作品は、一家で移動したが約束とは違い道もない知床

半島の原生林の開拓をしいられる。少女の一代記で大河小説。

『世に棲む日々』

司馬遼太郎 (文藝春秋)

西野 伸一郎



吉田松陰と高杉晋作らの活躍を詳細な取材と格調高い文章で

描いていて、とても読みやすく、感動させて頂きました。

司馬史観を通してみた幕末は、昨今の世情に通じるところ

も多く感じ、思う所大でした。

『地域医療の経済学』

井伊雅子著

(慶應義塾大学出版会)

宮武 光吉

この本は、東京から日本の医療、さらに国際的な比較まで述べている専門書です。筆者は、

現在一橋大学大学院教授ですが、「地域住民の安心感をどう

高めるか」という視点に立つて、書いています。そして、

日本の医療は、医療機関や高額な医療機器へのアクセスはよ

く、診療や病院建設などモノへの投資は多い一方で、ヒトへの

投資が少なく、患者の権利や医療提供者への教育やデータベ

スなどには費用をかけていないと指摘しています。

『カフネ』

阿部 曉子 (講談社)

中井 あつし



薫子 (四一) は不妊治療不発

で夫と離婚。弟が突然死、遺言に元婚約者せつな (二九) への

遺贈が書かれていた。家事代行社で調理担当のせつなに誘わ

れ、薫子は清掃の週末ボランティアを始める。母子家庭の貧

困、LGBT、バイアスなど現代の様々な様子が見えてくる小説。

八王子や多摩地区が舞台。家事代行社の「カフネ」とはポル

トガル語で「愛する人の髪にそつと指を通す仕草」の意味。

「カフネ」の優しさを味わえます。

河林満『渇水』を読んで 新しいプロレタリア文学か？

岡野 正義



『渇水』で河林満は文壇新人賞を受賞し、芥川賞候補となる。生前唯一の単行本になった作品集のタイトル作でもある。

河林は四歳の時実母をなくし、継母との折り合いが悪く全日制高校から定時制高校に転学し、様々な職業を経て立川市役所に就職する。

水道局・図書館・児童館等現場で働き、デスクワークの管理職に出世することはなかった。自治労文芸の編集に携わっていたようだ。

河林は小中学校のとき昭島市に住んでいたことを知った。昭島市在住なので親近感が湧いた。

『渇水』は水道局員が主人公で、長く支払いが滞納している利用者の水道を止める仕事をしている。

貧しい一家の水道を止めに訪ねるが、家に母親がいない幼い姉妹と出くわす。一度止めた止水栓を開け、家の風呂場・バケツ・洗面器等に水を溜めさせる。姉妹たちとのやりとりはほほえましい。

姉はいくら料金が滞納しているか計算すると言って電卓を持つてくるが電池がないのか数字が消えてしまう。

お母さんに連絡するように話をして水道を止める。

母親は数日帰宅せず姉妹は鉄道で自殺と思われる事故で死傷する。やりきれない結末で終わる小説だ。

水道局員と滞納している市民が面と向かった時に、とぼけてしらを切ったり、怒りだしたり等の態度の変化や言葉の応酬がリアルに表現されている。

規制通りに水を止めることに終始できない心の揺れが見て取れる。水道局員岩切のためらいや迷いは、「水と空」と太陽はただにすべきだ。」という発言に表れている。

この作品は貧困が重要なテーマのひとつだと思うが、現在はさらに深刻になっているように思う。新聞・テレビ等で一層明らかに多くの人が実感せざるをえなくなっている。

河林は若い時から同人誌に小説を書き続けた。友人の文芸評論家川村湊編集・解説『黒い水／穀雨 河林満作品集』（インパクト出版会二〇二一年）が出版され、単行本・文庫本以外の作品が読めるようになった。

その中には幼年時若死した母への思いを描いた『黒い水』生活保護のケースワーカーを主人公にした『穀雨』立川・昭島が舞台の、基地の米軍兵とパンパンやオンリーをモデルにした作品。実態が分かりづらいゴミ収集員の仕事の内幕、市役所を退職後に働いた警備員の仕事での過酷な現実を描いた作品等様々な題材の小説がある。芥川賞の候補になった『穀雨』が心を打つ。

生活保護は個人の「生活」を援護することだが、そ

の人の生そのものに関わらざるを得ない。

ケースワーカー水担は、アパートを借りてやり、禁止されている夜間訪問を繰り返す。一歩も二歩も踏み越えて非保護者に関与していく。『渇水』の主人公の苦悩と同じように生身の人間と直接相対する時、規則通り終始できないのかもしれない。

河林の小説は置きざりにされがちな題材を掘り起こしている作品もあり、格差社会が広がる今、読まれる作家だと思う。

追記―高橋正弥監督による映画「渇水」が製作されている。（角川文庫）

くにたちブッククラブ

一たしかにそこにいた「わたし」のこと―

はせせいしゅう

馳星周『少年と犬』

(文春文庫)

講師 大野 亮司
(亜細亜大学・日本近代文学)とき 1月9日(木)
夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎(572)5141

*今年度のブッククラブは
今回が最終回です。

◀ ブッククラブ HP



図書室のついで

『切手デザイナーの仕事』

取材から紡いだ 8 人 8 様の想い

お話 間部 香代 (作家)



誰もが身近に見て触れる「切手」。

デザインの美しさや愛らしさに心震わせ、貼ることを惜しんだり、また、送る相手を想いながらデザインを選んだり。そうした経験はありませんか。

そんな切手をデザインするのは、日本郵便の社員の方たちで、現在たった 8 人。8 人で年間約 40 種類の切手やシートのデザインをしているそうです。

著者の間部さんは 8 人全員に丁寧な取材を重ねられ、デザイナーたちそれぞれの切手への想い、デザインにかける想い、そして仕事への想いを聴き取り、余すところなく本書に紡がれています。

間部さんが取材で聴き取られたデザイナーたちの様々な想いと共に、間部さんご自身の切手への想いや仕事への想いを聴いてみませんか。

〈間部さんの本〉表題作、『銀座 伊東屋の仕事』(いずれもグラフィック社)、『よろしくパンダ広告社』(Gakken など)

とき 2 月 2 日 (日) 昼 2 時 ~ 4 時

ところ 公民館 地下ホール

定員 70 名 (申込先着順)

申込先 1 月 16 日 (木) 朝 9 時 ~

電話またはホームページより申込

公民館 ☎ 042(572)5141



QR

〈私の本棚から 第 4 回〉

たくきよしみつ文・写真

茅野美と里英訳

『狛犬かがみ』



黒川 祐子

お正月に神社仏閣にお参りされた方は多いと思いますが、参道にいた狛犬を覚えていらつしやいますか？ 狛犬はどれも同じようなものと思われた方もいらつしやるでしょう。それも理由があるようですが、それは後ほど。東京の狛犬は黒っぽい？ 小さい頃、私が京都などで見ていた狛犬は白っぽいんです。関西に御影石が多いこともあるでしょうが、顔なども少し違うようです。また、秩父の神社では狼みたいな狛犬、山の小さな祠では三角おむすびを半分にして左右に置いたような狛犬も見かけました。

友人知人に聞いてみても、いろんな狛犬がいます。

素材では木造 (宝物館などにいる)、青銅製、備前焼など陶磁器製、そして石造 (参道に多い)。石造でも

花崗岩、安山岩、砂岩、他に笏谷石のように地域性が見られます。姿も見慣れたおすわりから、大きな玉に

前脚をのせて立ち上がる、お尻を上げる、逆立ちする、渦巻く雲に乗るものまで。さらに東大寺南大門裏に

いるような異国風のもの、角があるもの、唐獅子っぽいもの (子獅子連れや獅子の子落とし)、そして、おかつ

ば頭も！ みんな「狛犬」なのに、いろいろです。そこで『狛犬かがみ』の出版です。著者自身は〇型

のような分類にはこだわりたくないようですが、鑑賞の手引きとして、狛犬好きの間で一般的な型を多くの写真で示しています。狛犬がどれも同じように思える

のは明治・大正に活躍した「岡崎」の石工の影響があること、ロマネスク教会の彫刻にも似た表情の「はじめ狛犬」とよばれる初期の参道狛犬、「江戸」と「畿内」の地域差、著者が「越前禿」とよぶおかつば頭など……。前述のいろいろな狛犬もぜひ、この本や、後出の『狛犬さんぽ』の写真をご覧いただければ、と思います。

古代オリエントのライオンがシルクロードを旅してインドで仏教と出会い、守護聖獣の獅子として中国、朝鮮半島を経て日本へ。日本では宮中や神殿などで獅子・狛犬の対となり、仁王様のような阿形吽形はやがて、神社仏閣の参道に奉納される狛犬となる……。そして北前船や街道、鉄路に沿って各地に広まっていたのではないのでしょうか？

さて、狛犬に興味を持たれたなら、まず谷保天満宮へ。宝物殿に鎌倉時代の木造の狛犬、拝殿前に明治の石造の狛犬がいます。おかつば頭が気になる方は、神楽坂の赤城神社へ。狛犬巡りのお散歩はいかがでしょうか。

(バナナブックス)

この本と一緒に読んだのは『狛犬さんぽ』(ミノシマタカコ著、川野明正監修グラフィック社)

・『獅子と狛犬』(MIHO MUSEUM 編 青幻社)、『狛犬誕生』(塩見一仁 澤標) この 2 冊で獅子から狛犬への変遷を知ることができます。

図書室休室のお知らせ

システム更新に伴い、公民館図書室・図書館休館・ホームページを休止します。

休止期間

1 月 23 日 (木) ~ 31 日 (金)



お知らせ QR

